

〔資料〕

後撰和歌集（滝尾本）

——イ本注記別表の補訂——

『後撰和歌集』は『古今和歌集』『拾遺和歌集』と共に勅撰和歌三代集として以後の歌人達の歌の範とされ貴ばれたが、現存諸本には『古今和歌集』のような序文もなく、歌の分類の不備、歌の重複、作者名の不統一、誤記なども多く、編集上の杜撰が見られ、未定稿の集かともいわれている。しかし、集の特徴として贈答歌が多く歌物語的傾向が見られる。これは当時の歌壇の趨勢を反映するものと考えられる。

後撰和歌集の写本として知られるものに、重要文化財である日光二荒山神社宝蔵の『後撰和歌集』がある。これは定家本以前に遡る現存最古の写本である。筆者は藤原教長といわれ、白地飛雲模様の料紙に緑・紫・紺・縹・茶の濃淡の色紙が配された美術的にも優れた古写本である。しかし、残念ながら、これは巻十の恋二までの上巻のみで、下巻は散逸し完本ではない。この本の末尾の見返しに「瀧尾内陣、天海（花押）、後撰和歌集、墨付参拾壹紙」とあり、この本は日光山の門主となった天海僧正の手扱本であったものが二荒山神社の摂社滝尾社に奉献されたのである。これが他の

高橋良雄

日光山宝蔵物と共に滝尾社内陣に収められたのは、東照宮の日光山鎮座によるのであろう。寛永一三年、東照宮が日光山の中心に造営されることになり、それまでの日光山の中心に位置した四本竜寺（現輪王寺）二荒山神社が他に移築されることになったため、日光山社寺の多くの宝蔵物は日光山内の最奥鎮座の滝尾社内陣に移転収納されたのであろう。それについては東照宮造営後に藤本坊亮慶によって記された『滝尾御内陣道具之覚』がある。経文を始め多くの宝蔵物の記帳に、次の勅撰和歌集の記述が見られる。

後撰和歌集（但墨付百卅壹丁切巾之地紙）
壹册

新古今三卷、後拾遺集貳卷、後撰和歌集
貳册、金葉和歌集貳册、千載和歌集貳局、
拾遺和歌集貳卷、詞花集壹卷

その中に、前述の二荒山本と共に納められた上、下二巻の『後撰和歌集』(二荒山本との区別のため滝尾本とした)がある。これがいかなる系統の書写であるのか、また、それは二荒山本とかかわりがありはしないかと記したのが、『歌語りと説話』(平成八年、新典社)に収載した「滝尾本後撰和歌集——そのイ本注記について——」である。滝尾本で注目されるのは多くのイ本注記である。詞書・作者にも各三箇所イ本注記があるが、歌には上巻に六二、下巻には八五、計一四七の多きを数える。この滝尾本の巻末に天福本の奥書が記されている。それにより天福本二類本である二条家本系統かとも考えたが、別表(1)に示したように、高松宮家本、為相本とも重なりが見られ、また、それらとも異なる箇所がある。そのためイ本注記の内容から関係があると考えられた二荒山本・為相本・雲州本との重なりなどをまとめたのが別表(2)である。これと共に天福本の奥書・詞書・歌序・歌数などの上から、滝尾本は天福本に最も近似するものであるといえる。しかし、その一部には非定家本的傾向も見られ、特に下巻においては為相本と相違する所もあり、雲州本と重なる箇所が多く、同系統の非定家本の諸本との結びつきがあることを前稿に記したのである。その抛り所の一つであるイ本注記の別表(2)については、その後、明らかにされた点もあり、その記述に補足訂正すべき所が可成りあるので、改めて補訂の別表を記したのである。特に表中、イ本の該当不明が更に明らかにされることを望むものである。

別表(1)

(17)	(16)	(15)	(14)	(13)	(12)	(11)	(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	番号
1403	1401	1307	1275	1272	1223	1205	1176	1147	1076	1069	954	917	779	479	149	113	
〃	詞	〃	歌	〃	〃	詞	〃	歌	左注	〃	歌	〃	〃	〃	〃	詞	
母身まかりて後	たまへりければ	ふたこの山	おもへはむねの	いひかはしける	うれへおこせて	あつたゝの朝臣の	きこえくるしき	あれたる波の	致仕	むへとこ夏に	本のふるねは	いつこへいくそと	男の心やうく	すこしふる日	をとなく	花さかりに	滝尾本
○	○	○	○	×				○			○		×	○	○	○	高松宮家本
				×	○	○	○		○	○		○	×				為相本

番号は為相本歌番号

詞——詞書

○各本と同じ ×両本と相違

別表(2)

上巻

不(該当異本不明)

(13)	(12)	(11)	(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	為相本 番号
74	73	71	67	"	66	64	"	58	43	20	15	6	滝尾本
花をこそ きみイ	花のかかとふ さそふイ	をとイ よそにのみ	なりゆくは かい	あはれともみれ めイ	もえわたる まさるイ	春さく花を ちるイ	いつれの山の のヘイ	をるはたを はイ	ふるさとに はイ	涙の もイ	雪だにとけぬ きえイ	何も かい	雲州本
○	○	○	慶○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	為相本
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	二荒山本
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

(28)	(27)	(26)	(25)	(24)	(23)	(22)	(21)	(20)	(19)	(18)	(17)	(16)	(15)	(14)
"	101	"	100	96	93	"	91	"	88	86	85	79	78	76
花は見てまし をイ	我ものにして なりとイ	ふちのうら葉の にイ	はる日さす くい	花のおもては もイ	何にか花を かはイ	せめイ しひてこひしき	散ぬる花は にしイ	をのか心にイ 心つからに	待ちてそ花の は(イなし)	秋やたつらむ きぬイ	ねこめに風の はイ	よふかひありて きくイ	花のたより あたりイ	みるイ なすよしもかな
○	○	○	○	○	○しか	○	○	○と	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(欠)	(欠)	○	○	○	○	○	○	○に	○	○	○	○	○	○

(43)	(42)	(41)	(40)	(39)	(38)	(37)	(36)	(35)	(34)	(33)	(32)	(31)	(30)	(29)
388	385	347	340	294	293	290	"	289	188	185	137	128	124	112
うち吹くからに ことイ	今ふり けふイ	見る時そ はイ	月の光は にイ	あめやめてとは とてイ	声すれは なりイ	秋のよに をイ	まねくおはなに もイ	うへなえつつそ ゑなめイ	かをとめは けイ	ちよをならせる へイ	君こそ ひイ	今朝みれは けふイ	千年をかねて けイ	花見にと むイ
○	○	○不	○不の	○不	○	○	○不	○	○不	○片	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○も	○	○	○	○	○	○	○ちとせ	○	(欠)	(欠)	○

(58)	(57)	(56)	(55)	(54)	(53)	(52)	(51)	(50)	(49)	(48)	(47)	(46)	(45)	(44)
679	676	670	663	641	597	576	573	530	510	436	421	413	397	391
遠山鳥の すりイ	氷なりける しにイ	よする磯まを へイ	なきなをいはは とイ	はるけかるらん かりけんイ	住吉の 江イ	たつとならなくに とイナシ	ころろイ うしろやすくも	水や絶にし まい	いつれまされる りイ	きみかためにそ とイ	声のわびしき そイ	今はちるらし けふイ	秋やしるらし らんイ	おもほゆるイ みえわたるかな
○	○	○不	○	○	○	○	○不	○	○	○不	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	いはく いりえに	(欠)	(欠)	○	かりなら なくに	○	○	○	○	○	○	○	○

(71)	(70)	(69)	(68)	(67)	(66)	(65)	(64)	(63)	
765	764	759	757	745	722	720	718	707	為相本 番号
あふと見つらん ゆイ	かなしきイ はかなき水も	思ひはなるる みタイ	あはときえなん うきイ	ふかさくらへに ありやと	涙なになり 留イ	朝露の 白イ	すて衣 ぬれイ	あふにもなにも はイ	滝尾本
○不	○不	○不	袖そめれめ	○	なりけり 不	○	○堀	○	雲州本
○	○	○	○	○	○	○		○	為相本

下巻

(62)	(61)	(60)	(59)
697	696	686	684
ことなし草を とイ	跡ゆへに 我イ	山とみえける はイ	いみそかねつる ぬるイ
○	○不	○	○清
○	○	○	○
○	○	○	○

(86)	(85)	(84)	(83)	(82)	(81)	(80)	(79)	(78)	(77)	(76)	(75)	(74)	(73)	(72)
876	〃	875	872	871	828	827	826	816	810	807	806	791	776	771
心なになり りけりイ	はるけかりける るらんイ	あふみは猶そ やイ	有としりけん ない	遥なる はかなかるイ	跡やたつぬる えイ	おもはぬためは すなるはイ	あひ見ぬことより 時イ	恋イ 名にこそ有けれ	涙かかりて へイ	ふるはかひなし そかなしきイ	音をそ鳴ぬる にそなかるれイ	たえねとも ぬイ	測と成ける ぬるイ	露やなになり 留イ
○	○	○堀	いひけん 不	○	○	○	○	○不	うつりて 不	○	○	○	○不	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(101)	(100)	(99)	(98)	(97)	(96)	(95)	(94)	(93)	(92)	(91)	(90)	(89)	(88)	(87)
980	974	963	949	941	932	924	923	922	915	914	910	898	897	887
とイ あふことまれに	袖のかはかねは ぬイ	猶きみ菊の のみイ	なかれあふせの もイ	あさりする せしイ	袖には跡も もあははイ	いひしことに たにイ	露のやとりは もイ	きててありつる けるイ	詠にもイ 宿とても	曉をきを かたイ	ちかからぬけの よイ	秋の夜なら すイ	からとなるまでも にイ	明くるわびしさ きイ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	にても	○慶	○	○	○	しも不
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(116)	(115)	(114)	(113)	(112)	(111)	(110)	(109)	(108)	(107)	(106)	(105)	(104)	(103)	(102)
1198	1195	1184	1166	1159	1139	1101	1078	1058	1043	1006	995	994	989	988
あた人も のイ	我にかさなん ねイ	かへしても はイ	何かへるらん りけんイ	あやなし何に なとかイ	何にかおほく かはイ	天津乙女と にイ	かすはわすれず まとはイ	かくなかれんとい かからん物と	なけきこりつむ るてふイ	鳴きてゆくらん いぬイ	怨もあへす らしイ	よとにあるてふ りイ	きゆるまもなく 世イ	かはかさるらん らい
○	○不	○	○	○	しか不	○不	○	○	○	○	○	○	○慶	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(131)	(130)	(129)	(128)	(127)	(126)	(125)	(124)	(123)	(122)	(121)	(120)	(119)	(118)	(117)
1280	1279	1275	1270	1269	1268	1256	1250	1249	1244	1243	1237	1226	1216	1204
山のやとりの 山とりイ	いせのうみの にイ	成ぬへし みイ	わか袖は にイ	まくらにもかな せよイ	わか鳴祢とも をイ	なかるれと はイ	すむ蛙 なくイ	月もいらしを かくれし	難波津を 江イ	花かさかなん はイ	玉とひひけは とひけりイ	此みみは君 にイ	声たてて にイ	ひとつ身を 名イ
○	○	○	○	○	○不	○	○	○	○	○	○	○	にいてて ○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	にたてて ○	○

(146)	(145)	(144)	(143)	(142)	(141)	(140)	(139)	(138)	(137)	(136)	(135)	(134)	(133)	(132)
1414	1403	1401	1400	1393	1387	1355	1353	1351	1324	1322	1311	1307	1296	1286
わかれイ おもはさりけり	見し人もかな なみイ	まつ咲花を 萩をイ	ねに行くをしの なイ	見るからに をイ	夢のなかにも うちイ	月なれと はイ	くもちイ 所なりけり	なにしおへは はイ	そらにこそなれ あれイ	あひもおしまぬ おもはぬイ	おほせこそせめ つるかなイ	ともにこえねと はイ	やむとやはきく みるイ	心とまりの まとひイ
○不	○	○	○とり保	○こと不	○堀	○不	○	○	○	○	○	○	不	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(147)
1422
くるイ こんとし春の
○
○

清(清輔本)
堀(堀河本)
慶(慶長本)
保(承保三年本)
片(片仮名本)